

令和7年度

石見智翠館高等学校
一般入学検定試験

国語

[注意事項]

1. 解答用紙は、この冊子にはさんであります。
まず解答用紙を取り出して、受検番号を記入すること。
2. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入すること。記入方法を
誤ると得点にならないので十分注意すること。
3. 試験終了後、問題用紙は回収するので持ち帰らないこと。

【第一問題】

次の問一、問二に答えなさい。

問一 次の1～4の傍線部の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- 1 くつきりとした輪郭を描く。
- 2 先生から諭されて反省する。
- 3 境内にあるイチヨウの木。
- 4 作品が佳作に選出される。

問二 次の1～4の傍線部のカタカナの部分それぞれ漢字で書きなさい。ただし、楷書で丁寧に書くこと。

- 1 要人をゴエイする。
- 2 練習の成果をヒロウする。
- 3 個別にセンニンの担当者がつく。
- 4 科学の発展にコウケンする。

【第二問題】

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私がみなさんをお願いしたいのは、どういう動物に対してでも、知らないままに、「汚い、醜い、気味が悪い」などマイナスなイメージを持たないでほしいということです。――Ⅰ――みなさんがこれまで糞虫くそむしやヘビやカラスにマイナスなイメージを持っていたとすれば、それは初めからではなく、育つ中で間違つてそのようなマイナスイメージを「学んでしまった」からです。

私は大人がいやがる糞虫を小学校低学年や幼稚園児に見せて、触らせたことがあります。糞虫だから気持ち悪いという子がいるのではないかと思っていましたが、どの子もいやがることはまったくありませんでした。このことから、子供はもともと偏見を持っていないのに、周りの大人が偏見を教えることでまちがったイメージを持つようになるし、逆に、正しく伝えることで、不愉快と感ずることを乗り越えることもできるのだと思いました。

誰でも自身が育った社会の②の影響を受けます。古代の日本人はカラスを聖なる鳥と想ったようですが、今はそうではありません。コウモリは不気味な動物とされますが、コウモリの漢字である「蝙蝠こうもり」の「蝠」は「福」と通じることから、中国では縁起が良いとされるそうです。これらがまったく根拠のない偏見であるのは明らかです。

このことからわかるのは、実態を知らないで無批判に言われていることを受け入れるとまちがったイメージを持つ、――Ⅱ――偏見を持つということです。その偏見の大半は後天的に社会、とくに家庭で「教えられる」ことによるものです。

その典型的な例はオオカミだと思えます。（中略）オオカミは大きく、頭の良い肉食獣です。人には困難なシカの捕獲をやすやすとおこないます。

中世のヨーロッパではヒツジを飼う農業をしていましたから、そのヒツジがオオカミに襲われ、殺されることがありました。それを見た農民は憤りいらだち、オオカミを憎みました。そしてオオカミを邪悪な動物として扱うことが多いキリスト教の影響もあって、オオカミは悪魔のような存在になりました。このことから、後の時代に北アメリカに渡ったヨーロッパ人はオオカミを見れば殺すことを当然と

考え、多くの州でオオカミが絶滅しました。

一方、日本の農業は稲作です。中世の農民は米をネズミに食べられ、田んぼのイネをイノシシやシカに食べられることに悩まされていました。ネズミを食べさせるためにネコを飼ったし、ネズミを食べてくれるキツネをありがたく思い、キツネは稲荷神社に祀られました。オオカミは家畜を襲うので恐れられましたが、イノシシやシカを殺すのでありがたがられました。埼玉県の三峯神社のようにオオカミを祀る神社があります。

(Ⅲ) 明治時代になって、日本のオオカミは絶滅します。その理由は不明ですが、私はその理由を、明治時代に西洋の価値観が導入され、その中にオオカミを描いた童話があつて、その影響で日本人もオオカミは悪魔のような動物だと偏見を持つようになったからではないかと考えています。

この比較は、同じオオカミが農業の違いによって西洋では悪魔になり、日本では神様になったことの好例だと思います。例えば「因幡の白ウサギ」や「カチカチ山」のような神話や昔話に出てくるウサギは嘘つきで性悪に描かれており、今の日本人の感じ方とは違うようですし、タヌキも「カチカチ山」では農民にとっては作物を食べる害獣ですが、「ぶんぶく茶釜」ではお人好しの存在に変化したようです。

農民にとって作物を食べる野生動物は憎むべき存在ですから、その害獣を食べてくれる肉食獣は仲間、あるいは自分たちを助けてくれる存在です。そこに見た目でかわいいとか、気味が悪いということもあつたとしても、生産活動に実害があるかどうかというリアルな価値観があります。

こうして形成された価値観は尊いものだと思いますが、同時に、そこに偏見があることも、また見逃してはならないと思います。

(高槻成紀「都市のくらしと野生動物の未来」一部改変による)

問一 空欄Ⅰ～Ⅲに入る最も適当な語を次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ないしは イ しかし ウ もし エ つまり オ なにしろ

問二 傍線部①「初めからではなく、育つ中で間違つてそのようなマイナスイメージを『学んでしまった』から」とあるが、これと同じ内容を別の表現で言いかえている部分を次の形式に合うように、文中から二十五字で探し、その初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。(句読点を含む)

() から。

問三 空欄 ② に入る最も適当な言葉を、文中から三字で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部③「無批判に言われていることを受け入れる」とあるが、これを表す表現として正しいものはどれか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 鳥無き里の蝙蝠 イ 鶇^う呑みにする
ウ 閑古鳥が鳴く エ 雉^きも鳴かずばうたれまい

問五 傍線部④「その」が指し示す内容を四十字以内で答えなさい。(句読点を含む)

問六 傍線部⑤「性悪」とあるが、これを反対に並べると「悪性」という意味の異なる熟語ができる。次のうち順序を変えてもほとんど意味の変わらない熟語ができるものはどれか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 感触 イ 相手 ウ 学力 エ 発揮

問七

本文に書かれている内容として正しいものはどれか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 狩猟生活をしていた頃の日本では、オオカミを恐ろしい動物だと認識して神社で祀ることがあった。
- イ 人間の思考や行いの基本は置かれた社会の状況によって容易に変わるので、順応するように努めるとよい。
- ウ 農民は、よく知らないのにかわいいとか気味が悪いとか見た目などでまちがったイメージを持つことが多々あった。
- エ オオカミに対して日本とヨーロッパで見方が違うのは、生活の基盤が異なっていたのが原因だと思われる。

【第三問題】

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

各クラスで体育祭のスローガンを決めることになり、投票で自分の案が採用され松尾音々は戸惑う。放課後に学級委員の天神^{じんいたる}から手伝ってほしいことがあると誘われるが、音々は無視して帰ってしまう。その夜、コンビニで天神^{てん}さんと鉢合わせる。

「ちよっと話さない？」

音々の返事も待たずに天神くんはコンビニを出ていった。

天神くんは、コンビニ前の駐車場で、いま買ったであろうペットボトルのお茶を、ごくごくと勢いよく飲んでいる。

音々は、そのまま天神くんの脇をすり抜けて帰ってしまおうかと思った。しかし、学校に続いて、二回連続で無視するの^のはさすがに申し訳ない気がした。

音々はノートを胸にぎゅっと抱きしめた。まだ一文字も書いていないけれど、ノートがあることで、少し気持ちを整理できるような気がした。ゆつくりと天神くんのほうに歩み寄る。

「かわやなぎ 風に逆らい うらおもて」

そばに立つと、ペットボトルから「ぷはっ」と口を外した天神くんは、突然意味不明な言葉をつぶやいた。

「さつき吟行^{ぎんこう}中、川沿いを歩いてたときに『カワヤナギ』を見つけてさ、って、ああ！」

①音々の表情を見て、天神くんは何かに気づいたみたいだった。

「『吟行』なんていきなり言われても知らないよね」

どうやら「銀行」のことではないようだ、ということに音々は気づいた。

「詩とか歌とかを詠^よむために、僕の場合は俳句だけど、その題材探しに出かけることを『吟行』っていうんだ」

なるほど、と音々は心の中で（ I ）手を打った。そして、天神くんがつぶやいたのが「俳句」であるということにもいま気づいた。

「松尾さんの今日のスローガン、川柳としてもすごくよくできてたね」

音々の顔がボツと赤くなる。天神くんにはあのスローガンが音々のだとバレていたのだ。

いつも教室の端っこでひとりぼっちで過ごしている自分が「青い春」とか「奪えない」とか、そんなことを考えていると他人に知られてしまったことが、音々にはすごく恥ずかしかった。思わず、フードをさらに深くかぶって赤くなった顔を隠す。

「うん、ほんと、よく『見てる』なって思った」

② 音々はハッと顔を上げた。「見てる」という天神くんの言葉に反応してしまったのだ。

「クラスみんながどんなことを考えてるのかよく見てるなうってさ」

凶星だった。音々は他人とコミュニケーションをとるのは苦手だったが、^③遠巻きにひとを見ているのは嫌いではなかった。「人間観察」というやつだ。

「川柳は、ひとの心情を詠む詩だからね。ひとを見ることが好きなひとに向いてるんだ」

音々が考えたのは「スローガン」であって、「川柳」のつもりなどさらさらなかった。

「奪えない この青い春 何人も」
なんびと

また天神くんが音々の、いや、二年二組のスローガンとなってしまった言葉を歌うように詠みあげる。今日だけで何度耳にしただろうか。いい加減、慣れてもいいものだが、音々は聞きたびに、なんだか責められている気分になってしまう。

「ほら、綺麗な五・七・五だろ？ このたった十七音でひとの世を表現するのが川柳さ」
きれいな

天神くんは、まるでその「川柳」を自分が発明したかのように、誇らしげだ。

「同じ五・七・五の十七音でも、俳句は自然がテーマ。宇宙を中心にした詩なんだよ」

これまた、さきほどの「川柳」よりもさらに自慢げに、天神くんは胸を張って語る。

「つと、ごめん。こんな話、いきなりされても引いちゃうよね」

ドヤ顔をしたり、おろおろしたりと忙しく変化する天神くんの表情が、音々には新鮮だった。教室ではいつもクールで、たとえば口元では笑っていても、目の奥には冷静な光が残っている印象があったから。

おそらく、ずっとクラスのみんなを観察している音々だから感じていることだと思う。二年二組のまとめ役で、人気者で、優等生。そんな天神くんが実は心から笑っていることが少ないなんて、誰が気づくだろうか。

「でも、嬉しかったんだ。うちのクラスにも、十七音の素晴らしいさをわかっているひとがいるって知って、テンションあがっちゃった」

天神くんは、自分でも興奮しすぎていることに気づき、頭をかきながら反省の弁を述べる。その仕草が、一層、普段の学級委員のときとは別人のように見えて、音々は「ドキリ」としてしまう。

「あ、そういえば、今日の放課後のことだけ……」

思い出したように天神くんが切り出したとき、音々の心臓はさつきとは違い（Ⅱ）音を立てた。

音々は顔を上げられない。無視したことを責められるのだと思った。謝らないと。でも、言葉が出てこない。

「ごめんね、松尾さんの予定も聞かずに勝手に決めちゃって」

天神くんが頭を下げた。驚いて、音々は顔を上げてしまう。謝罪終わりの天神くんの頭が元の位置に戻ってきて目が合ってしまう。

「あんな素敵な五七五を紡ぐ松尾さんに、僕の吟行を手伝ってもらいたいって思ったんだ」

吟行を手伝う。それは、つまり天神くんとふたりでお出かけするということだ。そんなの無理に決まっている。音々は首がちぎれそうなほど、ブンブンと左右に強く振った。

「そうだよ。いきなり吟行はないよね……」

天神くんの顔は、心から残念そうだった。音々の喉がぎゅっと詰まる。そんな顔をされたら、自分がとても悪いことをしたような気持ちになってしまう。

「でも、吟行じゃなきゃいいよね？」

沈んだ表情から一転、天神くんの顔が（Ⅲ）明るくなる。全然諦めていない顔だ。音々は、その折れない心に感心しながら

も、少し呆^{あき}れてしまう。

「今度『クカイ』に来てよ。隣町の公民館でやってるから」

天神くんはスマホを取り出した。「ID交換」のためだと、言われるまで気づかなかった。

「詳細、送っとくからね」

音々の連絡先が追加されたスマホを掲げながら、天神くんは嬉しそうに走り去っていった。

コンビニの青白い灯^{あか}りが届かない闇夜に消えていく天神くんを、音々は呼び止めることもできず、ただ見送るだけだった。

(百舌涼一「17シーズン 巡るふたりの五七五」一部改変による)

問一 空欄Ⅰ～Ⅲに入る最も適切な語を次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ぱあっと イ 「するっ」と ウ 「ギクリ」と エ ガツンと オ 「ぼんっ」と

問二 文中ののと文法上の働きが同じものとして、最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 父み^いたいな腕^{うで}の立^たつ職人^{しやくじん}になりたい。

イ 私^{わたし}の夢^{ゆめ}はオリ^{オリ}ンピック^{ピク}に出ることだ。

ウ 計算問題^{けいさんもんだい}を解^とくのが昔^{むかし}から得意^{とくぎ}だ。

エ 青空^{せいこう}に鯉^{こい}のぼりの泳^{およ}ぐ姿^{すがた}が見られる。

問三 傍線部①「音々の表情」とあるが、どのような表情だったと考えられるか。理由も入れて三十文字以内で答えなさい。(句読点を含む)

問四 傍線部②「音々はハッと顔を上げた」とあるが、それはなぜか。次の形式に合うように、文中から十七字で探し、その初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。(句読点を含む)

音々が() ()ことを言い当てられたから。

問五 傍線部③「遠巻き」の使い方として正しいものはどれか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 彼はその場から遠巻きに立ち去った。 イ 孫たちの成長を遠巻きに感じている。
- ウ 目線をゆつくりと遠巻きに動かす。 エ 人々は一頭の象を遠巻きに見物した。

問六 傍線部④「普段の学級委員のときとは別人」とあるが、普段の天神くんはどのような様子なのか。四十文字以内で答えなさい。(句読点を含む)

問七 「音々」はどのような人物か。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 波風を立てないよう自分の意思をまったく主張しない温和な人物。
- イ 注目を浴びることが苦手で、引っ込み思案なおとなしい人物。
- ウ 周りに惑わされず、自分の信じる道を切り拓く頑固な人物。
- エ 洞察力に優れていて、どのような状況でも冷静に判断できる人物。

【第四問題】

次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

能をつかんとする人、よくせざらんほどは、なまじひに人に知られじ。うちうちよく習ひえてさし出でたらんこそ、いと心にくから
（芸能を身につけよう）
（うかつに）

めと常に言ふめれど、かく言ふ人、一芸も習ひうることなし。いまだ堅固かたほなるより、上手の中にまじりて、毀り笑はるるにも恥
（いっこうに）

ぢず、つれなく過ぎて嗜む人、天性その骨なけれども、道になづまず、みだりにせずして年を送れば、堪能の嗜まざるよりは、終に
（平気で）
（生まれつきの天分）
（芸は達者だが不熱心な人）

上手の位にいたり、徳たけ、人に許されて、双なき名をうる事なり。

天下のものの上手といへども、始めは不堪の聞えもあり、無下の瑕疵もありき。されども、その人、道の掟正しく、これを重くして、
（ひどい欠点）
（勝手）

世ざれば、世の博士にて、万人の師となる事、諸道かはるべからず。
（にふるまう）

（「徒然草」による）

問一 傍線部①「習ひえて」・傍線部④「恥ぢず」の現代仮名遣いをひらがなで答えなさい。

問二 傍線部②「かく言ふ」とあるが、「かく」が指し示す内容を文中から探し、その初めと終わりの**五**字を抜き出して答えなさい。
(句読点を含む)

問三 傍線部③「かたほなる」の意味として、最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 不断の努力をしている イ 周りから評価されて ウ 対になる片一方の エ 不完全で未熟な

問四 傍線部⑤「その人」とは、どのような人を指しているか。**十五字以内**で答えなさい。(句読点を含む)

問五 傍線部⑥「放埒せ」とあるが、これと同じ意味を表す言葉を文中から**五**字で抜き出して答えなさい。

【第五問題】

「高校生になったらやりたいこと」というテーマで、次の指示に従って作文を書きなさい。

- 1 百五十字以上二百字以内でまとめること。
- 2 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。
- 3 題名や氏名は書かないこと。
- 4 段落は変えないこと。